

【ハイサイ沖縄 ～琉球から現代へ～】 - 講座を振り返って -

まずは、私が所属している生涯学習課のお仕事の紹介を。
市民の皆さまのニーズを把握し、様々な教室・講座を企画運営。
そのうえで、市民の皆さまが生涯にわたり行える学習（教養・体験等）に出会っていただくこと、そのきっかけとなる場を提供することが私達に与えられた使命だと考えております。

そして、私がこの講座を企画したきっかけはとても単純なものでした。

『沖縄が好きだから！』

ただこれだけだったんです。(笑)

私自身、これまで年2回位の頻度で沖縄に赴き、眩しいほどのエメラルドブルーの海、美味しい食べ物や今なお色濃く残る歴史遺産、さらには三線の音色に心を癒され、自分を浄化していました。

しかし今、気軽な旅行さえ憚れる状況になり、完全に沖縄ロス…。

だったら自分で講座を立ち上げればいいじゃん！

行きたいけど行けない。同じ気持ちの人たちは、香取市内にきっと沢山いるはず！

そこからの行動は早かったです。

まずは上司に相談。

私の熱意に押されたのか、快く「よし、やってみろ！」と仰ってくださいました。頭の中ではこんな講座にしたい、あんなこともやってみたいという構想が巡り、想いが溢れている状態。

でも…、ところで講師を引き受けてくれる方はいるのだろうか…？

これまた沖縄大好き、自称「沖縄病」の大先輩に相談したところ、「それなら打って付けの人がいるよ」とのことで、早速その「打って付けの人」にアポを取っていただきました。

その人こそ、宮里英克先生だったのです。

紹介していただいた大先輩の三線のお師匠でもある英克先生。

普段から修学旅行の事前学習の講演のため、全国の中学・高校を飛び回っておられるとてもお忙しい先生。

事前に会場等のチェックを兼ねて、わざわざお住まいの松戸市からこの香取市まで足を運んでくださり、入念に打ち合わせ。

そしていざ受講生募集の段階となり、結果、定員を上回る申込みがあり、その時点で嬉し涙が。

全3回講座の内容もコチラの意思を反映してくださり、配布資料もとても素晴らしい物を作成していただきました。

受講生の皆さんも、琉球からの歴史文化聴講の際は真剣にメモを取り、三線ライブの時間はとてもイキイキと笑顔で踊られていたのが印象的です。
このギャップが、何とも堪りませんでした。

これも全て、英克先生の優しい口調や分かり易いご説明あってのものです。
また、かりゆしウェア・着物(琉装)・エイサーと毎回衣装も変化に富んでおられ、目からも学習することができ、受講生の皆さんは携帯のカメラを向け、大忙し。

講座最終日に徴収させていただいたアンケートも、皆さん好意的な意見が多く、「是非とも、大きなイベントとして開催して欲しい」・「先生の魅力をもっと多くの人に知ってもらいたい」・「もっと沖縄のことを学びたい」等の感想をいただき、本当に企画して良かったとつくづく思い、またまた涙。

この講座を機に、受講生の皆さま方がこの先においても沖縄について学び、足を運び、沖縄楽器の音色に触れるなど、自主的に学ばれていくことを切に願います。

最後に、英克先生本当にありがとうございました。
今回の講座を通し、本当に人と人との繋がりには縁なんだなぁと改めて実感したとともに、このご縁に感謝です。

緊急事態宣言も解除となった今、さぁ沖縄旅行へ出発だ!!!